

佐藤敬子「五郎兵衛新田の伊勢講について」
佐藤敬子「史料紹介／桑山村名主市之丞の日記（五）文政二年一月～十二月」
柳沢恵二「八重原村の被差別部落関係史料（一）「役所日記帳」文化元年～天保四年」

<ル>

『Lucifer(ルシファー)』(仮称)水平社歴史館「建設推進委員会編、No15～No18(1996年春号～1996年冬号)」

(付) 解放理論に関する文献

石倉康次「1995年度部落問題の現状・行政研究の成果と課題」(『部落問題研究』138輯、1996年11月)

井上 俊ほか編『差別と共生の社会学』<岩波講座／現代社会学15>(岩波書店、1996年4月)

[主な収録論文は、以下の通り]

- ・赤坂憲雄「常民の形成—「土佐源氏」を読む」
- ・湯浅俊彦「差別表現と「表現の自由」論」
- ・上野千鶴子「複合差別論」
- ・福岡安則「差別研究の現状と課題」

奥山峰夫「特別対策と部落解放運動をめぐる二、三の論点」(『部落』614号、1996年特別号)

杉之原寿一「畑中敏之さんの国民融合論「批判」について」(『部落』605号、1996年5月)

杉之原寿一「峯岸賢太郎さんの「批判」に答える—拙著『「啓発」批判と意識変革』を中心に」(『部落』605号、1996年5月)

杉之原寿一「「同和行政の終結」をめぐる動向と課題」(『部落』614号、1996年特別号)

谷口幸男「1995年度同和教育研究の成果と課題」(『部落問題研究』138輯、1996年11月)

谷口幸男「「部落問題学習」を終わらせ、社会科の学習を充実させよう」(『部落』614号、1996年特別号)

東上高志「「部落問題学習」「同和(人権)啓発」の終結」(『部落』614号、1996年特別号)

友永健三「部落解放運動の新たな地平をめざして」(『産業と経済』11巻4号、奈良産業大学、1997年3月)

野口道彦「部落差別の現状認識のずれと解放の戦略」(八木正編『被差別世界と社会学』明石書店、1996年8月)

畑中敏之「これは国民融合論ではない」(『部落』609号、1996年8月)

松下圭一「日本の自治・分権」(岩波新書、1996年1月)

八木晃介「部落問題の社会学」(栗原彬編『日本社会の差別構造』弘文堂、1996年12月)

吉田智弥『歩きながらの反差別論——「人間に光」よみがえる日を信じて』<自治研なら別冊>(奈良県地方自治研究センター、1996年6月)

- 『部落解放史・ふくおか』82号(1996年6月)
 桜井さと実「『菜の花』から学んだこと」
 西尾紀臣「『インド・カースト制度研修』の旅から」
 古文書学習会「史料紹介／近世民衆の泉(26)」
- 『部落解放史・ふくおか』83号(1996年9月)
 ・竹森健二郎「提言／第15回九州地区部落解放史研究集会をおえて」
 ・渡辺俊雄「部落史研究と部落史学習」
 ・阿南重幸「長崎の海外貿易と皮革」
 ・竹森健二郎「近世初期、福岡における皮革業」
 ・中村久子「佐賀藩における頭支配」
 ・〈各県資料〉「大分・熊本・佐賀・長崎・宮崎・福岡」
 中山信一「筑後地方における解放への歩み—全筑後水平社結成70周年記念集会的
 取り組みを通して」
 古文書学習会「史料紹介／近世民衆史の泉(27)」
- 『部落解放史・ふくおか』84号(1996年12月)
 新谷恭明「近代学校教育と学力」
 竹森健二郎「戦後、福岡県部落解放運動史年表 稿」
 古文書学習会「史料紹介／近世民衆史の泉(28)」
- 『部落解放と大学教育』13号〈公開シンポジウム／瀬戸内海の被差別民衆と家舟衆〉
 (1996年5月)
 沖浦和光「瀬戸内海の被差別部落と家舟漁民」
 吉田禎介「芸予諸島の被差別部落—因島近辺の島から差別を考える」
 恵美昌和「家島・漁業地域の差別について」
 和田 勉「伊勢・南紀の漁村と被差別部落」
- 『部落解放ひろしま』24号(1996年4月)
 高崎 登「研究／水平社宣言を読む(4)」
 山本慎一「論理なのか、情緒なのか—斎藤洋一著『身分差別社会の真実』を読んで」
- 『部落問題研究』137輯(1996年7月)
 岡本 浩「近世大坂における職と町—大坂の髪結に関するメモ」
 金光 哲「『八幡愚童訓』甲の「屠児」記事をめぐって—今西一氏の批判に答える」
 津田 潔「小説『破戒』の中の「部落」・断章—「奈落」から来た思想家・猪子蓮
 太郎」
- 『部落問題研究』138輯〈1995年部落問題研究の成果と課題〉(1996年11月)
 前田正明「1995年部落問題研究の成果と課題—前近代」
 布川 弘「近代部落史研究の成果と課題(1995年)」
 ———「部落問題の歴史的研究文献目録(1995年)」
- 『部落問題研究』139輯(1997年3月)

- 鈴木 良「真宗教団批判の展開—水平社創立をめぐって(6)」
 西松本矯正会文書研究会「史料紹介／西松本矯正会文書(1)西松本郷土誌」
- 『部落問題—調査と研究—』121号(1996年4月)
 水内昌康「北海道家庭学校—留岡幸助のことなど」
- 『部落問題—調査と研究—』122号(1996年6月)
 佐藤安男「[[この本] 成沢栄寿著『人権と歴史と教育と』」
 小林末夫「部落問題と天皇制(3)」
- 『部落問題—調査と研究—』123号(1996年8月)
 歴史部会(前近代)「被差別民・差別はみんながつくった?—斎藤洋一氏近著の問
 題点」
 小林末夫「部落問題と天皇制(4)」
 大森久雄「岡山県の融和教育のあゆみ(草稿)(上)」
- 『部落問題—調査と研究—』124号(1996年10月)
 川端俊英「明治30年代の文学に現れた人間観(1)—樋口一葉「十三夜」の世界」
 小林末夫「部落問題と天皇制(5)」
 大森久雄「岡山県の融和教育のあゆみ(草稿)(下)」
- 『部落問題—調査と研究—』125号(1996年12月)
 川端俊英「明治30年代の文学に現れた人間観(2)—泉鏡花「照葉狂言」の世界」
 小林末夫「部落問題と天皇制(6)」
 大森久雄「岡山県の民主教育の始まり(草稿)」
- 『部落問題—調査と研究—』126号(1997年2月)
 川端俊英「明治30年代の文学に現れた人間観(3)—与謝野晶子『みだれ髪』の世界」
 藤野修二「民主教育の展開 1956年~64年[草稿・上]」
- 〈へ〉
- 『舩松歴史資料館だより』8号(1996年9月)
 ———「『馬』と『三』特別展で初公開—将棋名人阪田三吉の直筆文字が残る<
 壺><菓子器>」
 〈新展示物紹介〉「(1)乍恐願書—雪駄店打擲一件」
 〈新展示物紹介〉「(2)舩松尋常小学校」
 内藤国雄「将棋名人阪田三吉を語る」
- 『舩松歴史資料館だより』9号(1997年3月)
 ———「地元へ根ざした女性活動家—檀登代」
 ———「新展示物紹介(3)舩松村・堺市合併」
 渡辺俊雄「よもやまばなし(2)」
- 〈ミ〉
- 『水と村の歴史』11号(1996年7月)
 藤沢靖介「弾左衛門と近世関東の被差別部落」
 藤巻直子「近世の村落文化形成とその担い手」

- (英) 「本の紹介／『奈良県部落解放史年表』
溝上 瑛「マスコミの現場から／『破戒』九十年」
『部落解放』410号(1996年9月)
(智) 「本の紹介／全国部落史研究交流会編『部落史における東西』
『部落解放』411号(1996年10月)
相蘇一弘「展示や解説に工夫いっぱい一新しくなった「リバティおおさか」を見て」
(たけ)「本の紹介／渡辺俊雄『いま、部落史がおもしろい』
(津) 「本の紹介／谷川梅子『それでもわては生きてきた』
(仁) 「本の紹介／『宗教と部落差別関係文献・論文目録編集委員会編『宗教と部落差別関係文献・論文目録』
『部落解放』412号〈「けがれ」と差別〉(1996年11月)
座談会「斎場への差別をめぐって—斎場労働の現場から」
吉田拓郎「火葬業務に対する差別」
羽江忠彦「六曜迷信と部落差別」
中村水名子「部落差別と「穢れ」意識」
川尻文昭「真宗と穢」
橋本 要「中西和久の新作／ひとり芝居「山椒大夫考」
(玉) 「本の紹介／新保満『石をもて追われるごとく』
(牧) 「本の紹介／大谷藤郎『らい予防法廃止の歴史』
川口正志・仲林弘次・守安敏司・吉田栄治郎・白井寿光・朝治武・秋定嘉和「座談会／新たな水平社運動像が—『図説 水平社運動』を刊行して」
『部落解放』414号(1996年12月)
〈連載・戦後を聞く〉「(第一回) 奈良本辰也さん／多士済々、壁を越えて集う—戦後草創期の部落問題研究」
(K) 「本の紹介／戸籍と天皇制研究会編『戸籍解体講座』
『部落解放』415号(1997年1月)
(智) 「本の紹介／赤坂憲雄『東北学へ(2)』〈聞き書き・最上に生きる〉」
『部落解放』416号〈人権の博物館へ行こう〉(1997年2月)
あさじたけし「『博物館行き』から『博物館へ行こう』へ」
井上孝・小林淳一・長谷川賢二・宮前千雅子・小島伸豊「座談会／博物館展示と人権」
〈各地から〉「複合施設の利点を生かして—福岡県人権啓発情報センター(ヒューマン・アルカディア)」
〈各地から〉「人権尊重の思想を県民に一三重県人権センター常設展示室」
〈各地から〉「『まちづくり』とともに—京都市楽只隣保館資料室(ツラッティン本)」
〈各地から〉「地域の歴史を大切に—堺市教育委員会船松歴史資料館」

- 君塚仁彦「『人権博物館』の持つ意味」
加藤敏明「人権教育・啓発と博物館」
小山仁示「本の紹介／戦争犠牲者を心に刻む会編『私たちと戦争責任』
(耕) 「本の紹介／義江彰夫『神仏習合』
『部落解放』417号〈第27回部落解放・人権夏期講座〉(1997年2月)
寺木伸明「被差別部落と人権の歴史」
『部落解放』418号〈部落解放研究第30回全国集会〉(1997年3月)
渡辺俊雄「部落史と解放運動史研究の課題—いくつかの問題提起」
豊田寛三「大分県近世被差別部落史をめぐる諸問題—被差別部落の確立と差別への抵抗の視点から」
森 謙二「近代の「穢れ」—差別と墓」
清田昌助「大分県における部落解放運動の歴史と課題」
『部落解放』419号(1997年3月)
渡辺俊雄「本の紹介／塩見鮮一郎・小松克己『どう超えるのか? 部落差別』」
『部落解放研究』110号(1996年6月)
北口末広「図書紹介／苅谷剛彦『大衆教育社会のゆくえ』
——「第三回原田伴彦賞 選評」
『部落解放研究』111号〈部落史の可能性〉(1996年8月)
渡辺俊雄「部落史の可能性」
亀岡哲也「自治体史の編纂と地域の部落史をめぐって」
藤原 宏「中世根来寺と泉佐野市域の賤民」
和田恵治「明治前期町村合併運動の一視点—大和国葛上郡岩崎村の「町村合併」問題をめぐって」
——「部落史関係文献目録(1995年1月～1996年3月)」
——「部会報告(前近代・近現代)梅村郁夫「現代社会と文書館」」
『部落解放研究』112号〈第18回部落解放研究者集会〉(1996年10月)
三原容子「近代大阪の都市のあり方と部落」
福原宏幸「近代大阪、部落の労働・生活実態—都市発達の文脈において考える」
小林丈広「近代大阪の都市のあり方と部落」について」
藤原 宏「中世根来寺と泉佐野市域の賤民(2)」
『部落解放研究』12号(1997年3月)
羽江忠彦「迷信と社会啓発」
『部落解放研究くまもと』32号(1996年10月)
永野一成「史料『御郡方文書 巻』(続)—「永青文庫」史料より」
——「『部落解放研究くまもと』総目次—第一六号(一九八八年)～第三一号(一九九六年)」
『部落解放史くるめ』10号(1997年2月)
竹森健二郎「記念講演 全九州水平社の活動とその特徴」

- 金井秀樹「書評／『大東亜民俗学』の虚実』川村湊著」
 『ひょうご部落解放』74号(1997年3月)
 藤原 豊「近世「穢僧」についての一考察—摂津国川辺郡火打村勝福寺住職の変遷」
 中尾健次「史料／播磨国印南郡の部落史関係史料(その2)」
 <フ>
 『部落』604号(1996年4月)
 東上高志「部落問題研究所の五〇年(1) 連載を始めるにあたって」
 『部落』605号(1996年5月)
 東上高志「部落問題研究所の五〇年(2) 部落問題研究所の設立」
 『部落』606号(1996年6月)
 東上高志「部落問題研究所の五〇年(3) この連載にかける思い」
 鯨坂 真「本棚／戦後民主主義と人権の現在」
 東上高志「本棚／鬼はいなかった—「八尾中」も・の・が・た・り」
 『部落』607号(1996年7月)
 東上高志「部落問題研究所の五〇年(4) 戦後初期の部落問題の虚像と実像」
 『部落』609号(1996年8月)
 東上高志「部落問題研究所の五〇年(5) 戦後初期の部落問題の明と暗」
 『部落』610号(1996年9月)
 東上高志「稲田耕一さん ありがとう」
 東上高志「部落問題研究所の五〇年(6) 最初の部落調査」
 『部落』611号(1996年10月)
 石川元也「戦後五十年と部落問題」
 東上高志「部落問題研究所の五〇年(7) 戦後同和教育の成立」
 『部落』612号(1996年11月)
 鈴木 良「渡辺 広先生を悼む」
 東上高志「部落問題研究所の五〇年(8) 初期の研究所を支えたもの」
 谷口幸男「教科書の部落問題記述について—来年度中学校の教科書をみる」
 『部落』613号(1996年12月)
 東上高志「部落問題研究所の五〇年(9) 「部落史」をめぐって」
 内田九州男「本棚／部落史に考える」
 奥山峰夫「本棚／証言・京都市の同和行政」
 『部落』615号(1997年1月)
 奥山峰夫「第34回部落問題研究者全国集会報告 <分科会報告>「歴史I」(藤田和敏)／「歴史II」(梅本哲世)」
 東上高志「部落問題研究所の五〇年(10) 若い力、新しい力」
 『部落』616号(1997年2月)
 大森久雄「渋染一揆が、いま(1)—教育・運動で」

- 東上高志「部落問題研究所の五〇年(11) 部落問題の新しい局面」
 豊田慶治「証言・京都市の同和行政」余滴」
 『部落』617号(1997年3月)
 大森久雄「渋染一揆が、いま(2)—歴史研究で」
 東上高志「部落問題研究所の五〇年(12) 部落差別と国民の権利」
 『部落解放』404号(1996年4月)
 脇田 修「地域部落史のすぐれた成果—書評／『近江八幡の部落史』」
 (智) 「本の紹介／『江戸の弾左衛門』」
 『部落解放』405号<民衆の中世史>(1996年5月)
 細川涼一「中世被差別民の姿—研究の現状と課題をふまえて」
 笹本正治「職人意識の変化—金を掘る職人」
 吉村 亨「「犬」と河原者」
 吉田徳夫「民衆と宗教」
 渡辺俊雄「部落史の中世と近世—近世政治起源説を考える」
 川元祥一「太鼓の音(17)労働と文化」
 山成孝治「マスコミの現場から／水平運動の歩みにふれて」
 中尾健次「本の紹介／寺木伸明『被差別部落の起源』」
 (H) 「本の紹介／『フォーラム／ハンセン病の歴史を考える』」
 溝口正美「寺木知さんをしのぶ」
 平野一郎「司馬遼さんと「差別」のこと」
 ———「小林初枝さんにインタビュー—きまじめに生きてきたんですよ」
 『部落解放』406号(1996年6月)
 吉村智博「戦後部落史の実像に迫る—リバティおおさか第40回特別展「戦後部落問題の諸相」」
 川瀬俊治「「白丁」差別と部落差別—南大阪教育振興財団の訪韓研修」
 川村邦光「本の紹介／宮田登『ケガレの民俗誌』」
 朝治 武「本の紹介／高橋幸春『絶望の移民史』」
 (J U) 「本の紹介／部落解放研究所編『部落史の再発見』」
 (渡) 「本の紹介／滝尾英二編著『日帝下朝鮮の「癩」政策と小鹿島に生きた人びと』」
 (枕流) 「本の紹介／大杉一雄『日中十五年戦争史』」
 『部落解放』407号(1996年7月)
 三宅郁子「明治期、大阪市内の食肉市場の変遷(上)」
 松下志朗「伝承と史実—川元祥一氏の「神石の祭り」について」
 川元祥一「松下志朗氏への手紙」
 『部落解放』408号(1996年8月)
 三宅郁子「明治期、大阪市内の食肉市場の変遷(下)」
 割石忠典「本の紹介／『新修 大阪の部落史』下巻」

- 『こべる』49号(1997年3月)
畑中敏之「部落のいまを考える(20)身分・身元・アイデンティティー「部落民」とは誰のことなのか」
- <サ>
『雑学』14号(1996年11月)
朝治 武「喜田貞吉の水平運動認識」
辻本正教「穢れと清め、そして草履(8)」
金井英樹「『五勺の酒』とその時代(下の後)」
高桑健二「中上健次私論ノート(9)」
仲林弘次「[馬]のフォークロアの世界と部落史」
茶屋休也「後世の歴史家がそのように評価するこの時代の終の栖は何処にあるのか」
- 『差別とたたかう文化』1号(「差別とたたかう文化」刊行会、1996年5月)
土方鐵・朝治武・太田恭治「鼎談/部落の文化とはなにか」
- 『差別とたたかう文化』4号(1997年4月)
趙 博「極私版・在日朝鮮人の「現在」」
- <シ>
『しんかんあんない』52号(解放出版社、1997年3月)
斎藤洋一「一枚の古文書から(2)「ちょうり」の移住」
- 『人権教育研究』5号(花園大学人権教育研究室、1997年3月)
吉田智弥「運動の〈意味と方法〉の再構築」
- <ト>
『同和教育石川』16号(石川県同和教育研究協議会、1996年11月)
渡辺俊雄「部落史の見直しを考える一部落史研究の現場から」
- 『同和教育研究』17号(同和教育振興会、1996年3月)
上杉 聰「部落起源論をめぐる最近の論争について」
- 『同朋』48号(真宗大谷派宗務所、1997年1月)
——「THE BOOK/渡辺俊雄『いま、部落史がおもしろい』」
- <ナ>
『ながさき部落解放研究』33号(1996年10月)
阿南重幸「島原半島における「部落」史と「同和」問題」
山下信哉「現代の部落解放運動 年表(草稿)」
長崎県部落史研究所「『犯科帳』史料紹介—「部落」史関係記事」
- 『ながさき部落解放研究』34号(1997年3月)
長崎県部落史研究所「『犯科帳』史料紹介—「部落」史関係記事」
- <ヒ>
『ヒューマンライツ』97号(1996年4月)
中尾健次「いま、部落史が面白い(1)「近世政治起源説」の根拠」

- 『ヒューマンライツ』99号(1996年6月)
中尾健次「いま、部落史が面白い(2)「近世政治起源説」の“見直し”(1)」
乾 武俊「説経「をぐり」の劇化(1)」
- 『ヒューマンライツ』100号(1996年7月)
中尾健次「いま、部落史が面白い(3)「近世政治起源説」の“見直し”(2)」
乾 武俊「説経「をぐり」の劇化(2)」
- 『ヒューマンライツ』101号(1996年8月)
中尾健次「いま、部落史が面白い(4)「近世政治起源説」の“見直し”(3)」
乾 武俊「説経「をぐり」の劇化(3)」
角岡伸彦「大阪人権博物館だより(1)謝罪状が意味するもの」
- 『ヒューマンライツ』102号(1996年9月)
中尾健次「いま、部落史が面白い(5)部落史の終わりとは」
乾 武俊「説経「をぐり」の劇化(4)」
角岡伸彦「大阪人権博物館だより/着物からみるアイヌ文化」
- 『ヒューマンライツ』103号(1996年10月)
中尾健次「いま、部落史が面白い(6)起源に関する蛇足と“悲惨史観の克服”について」
- 『ヒューマンライツ』104号(1996年11月)
中尾健次「いま、部落史が面白い(7)“悲惨史観の克服”について(2)」
奥田 均「図書紹介/渡辺俊雄『いま、部落史がおもしろい』」
- 『ヒューマンライツ』105号(1996年12月)
中尾健次「いま、部落史が面白い(8)“悲惨史観の克服”について(3)」
仲間恵子「大阪人権博物館だより/大阪発の沖縄民謡」
- 『ヒューマンライツ』106号(1997年1月)
阿部謹也「日本社会の「世間」と部落差別—歴史から見た「世間」と差別」
中尾健次「いま、部落史が面白い(9)“悲惨史観の克服”について(4)」
文 公 輝「大阪人権博物館だより/在日一世の生活史をたどる」
- 『ヒューマンライツ』107号(1997年2月)
中尾健次「いま、部落史が面白い(10)近世と近代の連続・非連続について(1)」
- 『ヒューマンライツ』108号(1997年3月)
中尾健次「いま、部落史が面白い(11)近世と近代の連続・非連続について(2)」
文 公 輝「大阪人権博物館だより/西光万吉記念室」
- 『ひょうご部落解放』69号(1996年5月)
小林丈広「書評/『日本近代化と部落問題』領家 穰編著」
- 『ひょうご部落解放』70号(1996年7月)
吉村智博「書評/『部落史における東西(食肉と皮革)』全国部落史研究交流会編」
- 『ひょうご部落解放』72号(1996年11月)
高木伸夫「書評/渡辺俊雄『いま、部落史がおもしろい』」

- 「連載 私はだれでしょう？仕事編(13)」
『月刊スティグマ』19号(1996年11月)
- 「連載 わたしはだれでしょう？(14)」
『月刊スティグマ』20号(1996年12月/1997年1月)
- 「連載 わたしはだれでしょう？(15)」
『月刊スティグマ』21号(1997年2月)
- 「連載 わたしはだれでしょう？(16)」
『月刊部落問題』233号(1996年5月)
- 布川 弘「近代の社会的差別(13)「細民部落改善」と部落問題⑥」
田端保文「『血縁の系譜』の歴史を一面から見ると」
『月刊部落問題』234号(1996年6月)
- 布川 弘「近代の社会的差別(14)賀川豊彦と「新川」①—賀川豊彦の思想」
『月刊部落問題』235号(1996年7月)
- 布川 弘「近代の社会的差別(15)賀川豊彦と「新川」②—「新川」の状態①」
『月刊部落問題』236号(1996年8月)
- 布川 弘「近代の社会的差別(16)賀川豊彦と「新川」③—「新川」の状態②」
『月刊部落問題』237号(1996年9月)
- 布川 弘「近代の社会的差別(17)賀川豊彦と「新川」④—「新川」の状態③」
『月刊部落問題』238号(1996年10月)
- 布川 弘「近代の社会的差別(18)賀川豊彦と「新川」⑤—賀川の「日記」」
『月刊部落問題』239号(1996年11月)
- 布川 弘「近代の社会的差別(19)賀川豊彦と「新川」⑥—「死線を越えて」の反響」
『月刊部落問題』240号(1996年12月)
- 布川 弘「近代の社会的差別(20)賀川豊彦と「新川」⑦—「新川」転任当初」
『月刊部落問題』241号(1997年1月)
- 布川 弘「近代の社会的差別(21)賀川豊彦と「新川」⑧—「新川」での苦悩と葛藤」
『月刊部落問題』242号(1997年2月)
- 布川 弘「近代の社会的差別(22)賀川豊彦と「新川」⑨—稲木由太郎の「改心」」
『月刊部落問題』243号(1997年3月)
- 布川 弘「近代の社会的差別(23)賀川豊彦と「新川」⑩—「改心」と挫折の間で」
『研究紀要』2号(世界人権問題研究センター、1997年3月)
- 山本尚友「中世末・近世初頭の洛南における賤民集落の地理的研究(上)」
三原容子「水平社運動における「アナ派」について」
水野直樹「在日朝鮮人・台湾人参政権「停止」条項の成立(続)在日朝鮮人参政権問題の歴史的研究(2)」
松田素二・市場淳子「研究ノート/内外人平等の系譜—日本の被爆者行政と韓国人被爆者」
『研究所通信』212号(1996年4月)

- 「大阪レベルでの地域部落史のネットワーク発足—地域部落史交流会開催」
『研究所通信』213号(1996年5月)
- 里上龍平「図書紹介/部落解放研究所編『部落史の再発見』」
『研究所通信』215号(1996年7月)
- 内山一雄「図書紹介/『部落史における東西』」
『研究所通信』217号(1996年9月)
- 朝治 武「図書紹介/渡辺俊雄『いま、部落史がおもしろい』」
『研究所通信』218号(1996年10月)
- 秋定嘉和「『部落史の見直し』を議論—第2回全国部落史研究交流会に参加して」
『研究所通信』223号(1997年3月)
- 北口末広「新たな理論創造を—第4回部会長・副部会長・幹事・事務局合同会議」
『研究報告』11号(奈良県大学同和教育研究協議会、1997年3月)
- 徐 龍 達「『アジア市民』への展望—韓朝鮮人としての半世紀から考える」
渡辺俊雄「部落史研究の今」
<コ>
- 『こべる』38号(1996年5月)
- 原田孝博「部落差別と共同体意識の関連について—畑中敏之著『「部落史」の終わり』と住田一郎「論稿」への感想」
『こべる』39号(1996年6月)
- 灘本昌久「瀬川丑松、テキサスへ行かず—『破戒』のキーワード「隠す」と「引き受ける」について(上)」(～(下)40号、7月)
- 『こべる』43号(1996年10月)
- 師岡佑行「シンポジウム「近世政治起源説をめぐって」」
『こべる』45号(1996年12月)
- 網野善彦・師岡佑行・藤田敬一「『京都の部落史』第一巻 前近代概説篇をめぐって(1)進歩史観から落ちこぼれたもの—一部落史研究の意味」
『こべる』46号(1997年1月)
- 網野善彦・師岡佑行・藤田敬一「『京都の部落史』第一巻 前近代概説篇をめぐって(2)歴史の中に人間と自然の関係を見る」
熊谷 亨「第36回「こべる」合評会から」
『こべる』47号(1997年2月)
- 網野善彦・師岡佑行・藤田敬一「『京都の部落史』第一巻 前近代概説篇をめぐって(3)差別と貧困の部落史観からの脱却」
住田一郎「全同教長崎大会と福岡水平塾で考えたこと」
『こべる』48号(1997年3月)
- 師岡佑行「人権擁護施策推進法の成立と部落解放運動」
土方 鐵「ひろば(32)小説は小説として読め」

- 『解放新聞』1768号(1996年5月)
吉村智博「図書紹介／初めての総合的記録—生活擁護闘争の意義『教科書無償』」
- 『解放新聞』1801号(1997年1月)
榎村 遙「部落史の小径／夢幻のなかの牛」
- 『解放新聞』1809号(1997年3月)
辻本正教・藤野豊・八木晃介「理論のページ／ケガレとは何かを問う(1)」
- 『解放新聞』1814号(1997年4月)
辻本正教・藤野豊・八木晃介「理論のページ／ケガレとは何かを問う(2)」
- 『解放へのはばたき』52号(日本基督教団部落解放センター、1996年11月)
——「読書の御案内(1)渡辺俊雄『いま、部落史がおもしろい』」
- 『関西大学人権問題研究室』33号(1996年6月)
吉田永宏「藤村『破戒』と部落問題(1)差別性の論議をめぐって」
印藤和寛「部落史教育上の問題点—部落差別と朝鮮人差別の関係にふれて」
小林丈広「近代部落問題の成立・序説—都市貧民を追って」
金 英 達「創氏改名をめぐる抵抗と弾圧について—朝鮮総督府の公安資料「思想彙報」を主材に」
森 杉夫「史料紹介／和泉国南王子村関係史料(1)年々御取箇立会割賦覚帳」
- 『関西大学人権問題研究室』34号(1996年12月)
森 杉夫「史料紹介／和泉国南王子村関係史料(2)年々御取立箇立会割賦覚帳」
- <キ>
- 『季刊・リバティ』14号(1996年6月)
大越愛子・源淳子・藪田貫・宮前千雅子「座談会／第二次常設展示をめぐって(2)性と家族」
坂口啓子「日本の医療と人権—薬害エイズ問題を中心に」
趙 博「日本映画のなかの在日コリアン—『新・悪名』を手がかりに」
松村貞一・竹岡雅子・藤原岩男・柳本幸生・向井正・小島伸豊「座談会／スタートしたガイドボランティア」
栗山靖弘「観たり・聴いたり／狂言「月見座頭」」
- 『季刊・リバティ』15号(1996年9月)
辛基秀・金城聲・チカupp美恵子・朝治武・仲間恵子・文公輝「座談会／第二次常設展示をめぐって(3)民族と列島の南北」
太田恭治「いま部落の文化論を問い直す」
澤野 明「「人権ネット」の発足と今後の課題」
朝治 武「歴史系博物館における人権展示の可能性」
吉村智博「戦後初期「同和教育」の再考」
文 公 輝「「黄金と佗び—秀吉展」を見て」
久保聡子「観たり・聴いたり／表現を豊かにする手話落語」
宮前千雅子「「部落民」になったわたし」

- 『季刊・リバティ』16号(1996年12月)
小林丈広・小山仁示・生瀬克己「座談会／第二次常設展示をめぐって(4)身体文化と差別」
栗山靖弘「博物館での漫画展示の可能性と課題—企画展「漫画にみる日本人の黒人像」をふりかえって」
小島伸豊「聞き取り／と場で働く」
のびしょうじ「江戸時代の内職食」
加藤弘道「子どものいる風景が好きなんです—ガイドボランティアに聞きました」
吉村智博「「被害」と「加害」とのあいだで—長崎原爆資料館を観て」
角岡伸彦「ベトナムと日本の間」
仲間恵子「ハワイ訪問記—先住民族と移民の生きる島」
- <ク>
- 『グローブ』5号(1996年4月)
上田正昭「歴史随想／渡来と帰化と」
福田雅子「にんげん／心は売らへんかったで—谷上梅子さんの生涯」
秋定嘉和「伊東茂光の周辺」
- 『グローブ』7号(1996年10月)
秋定嘉和「小林佐兵衛と司馬さん」
- 『グローブ』8号(1997年1月)
西田文英「人権啓発事業をとおして」
三原容子「部落解放運動を闘った大阪のアナキスト」
- <ケ>
- 『月刊滋賀の部落』251号(1996年5月)～263号(1997年3月)
谷口勝巳「近江の歴史逸話物語(第24回～最終回)」
- 『月刊滋賀の部落』252号(1996年6月)
平井清隆「自著を語る『蓮如上人の母とその身内』」
- 『月刊滋賀の部落』260号(1997年1月)
北沢正彦「『広野町史』編纂にかかわって」
- 『月刊スティグマ』12号(1996年4月)
坂井康人「近代被差別部落と草履作り・棕櫚表作り(上)」
——「連載 私はだれでしょう？仕事編(10)」
- 『月刊スティグマ』14号(1996年6月)
——「連載 私はだれでしょう？仕事編 職業差別の歴史(11)」
- 『月刊スティグマ』15号(1996年7月)
坂井康人「近代被差別部落と草履作り・棕櫚表作り(下)」
- 『月刊スティグマ』16号(1996年8月)
——「連載 私はだれでしょう？仕事編(12)」
- 『月刊スティグマ』17号(1996年9月)

- ・有光 健「『東京部落解放研究』の思い出」
- ・松本俊夫「したたかな百号からの船出を」
- ・八木晃介「私の社会化と東京部落解放研究会」
- ・藤沢靖介「『東京部落解放研究』誌の二十三年を振り返って」
- ・編集部「インタビュー／中山英一さんに聞く一東日本の戦後部落解放運動のあゆみ」
- ・片岡明幸「東日本の部落解放運動の現状」
〈特集2：部落史研究の新たな展開—東日本の各地から〉
- ・斎藤洋一・大熊哲雄・藤沢靖介・門馬幸夫・石田貞・佐藤泰治・松浦利貞・(司会) 大串夏身「座談会／地域史をふまえた全体像の形成を一部落史研究の現在」
- ・吉田 勉「歴史教材『埼玉の部落—歴史と生活』の刊行について一部落史見直しの方法意識にふれつつ」
- ・池田秀一「『下野国半右衛門文書』について」
- ・菊地照夫「近世練馬部落史と杉本惣兵衛」
- ・鳥山 洋「大磯「助左衛門文書」から」
- ・田島寿子「資料紹介／ある無名活動家の願い—中村重次郎さんのこと」
斎藤洋一・長谷川三郎・金子マーティン・武藤啓司・(司会) 石田貞「現代日本の差別構造—その特質と解放の方向性〈東日本部落解放研究所設立十周年記念シンポジウム報告〉」
塩見鮮一郎「連載／馬の文化史(3)百済からの馬と人」
- 〈ウ〉
- 【ウインズ・風】9号(福岡県同和教育研究協議会、1996年12月)
——「わがまま書評／水平社運動編」
- 〈オ〉
- 【大阪の部落史通信】6号(1996年6月)
森田康夫「史料紹介／柴屋文書の意義—近世大坂の和膠生産とその流過程を解明」
小山仁示「書評／『戦争と東のひとびと』—一部落史と空襲・戦争」
中尾健次「藤本清二郎氏の最近の業績を読む」
高木伸夫「史料紹介／戦後初期の大阪市の同和行政」
——「史料収集の動き／大阪市公文書館」
渡辺俊雄「ひと／坂田三吉はどう描かれてきたか」
松原右樹「図書紹介／西郡の赤襦袢の風習—『被差別部落の民俗伝承 大阪』」
——「寄贈図書一覧」
- 【大阪の部落史通信】7号(1996年9月)
藤本清二郎「史料紹介／泉州日根郡谷川村の被差別民について」
里上龍平「史料紹介／町村会議録にみる戦前の部落」

- 左右田昌幸「再考／解放令以前の「渡辺村の歎願書」をめぐって」
冨坂 賢「ひと／堀田又吉—部落改善事業の再評価にむけて」
松原右樹「図書紹介／サンダラと「赤」の民俗—『被差別部落の民俗伝承 大阪』」
——「史料収集の動き／研究会・日程／寄贈図書一覧」
- 【大阪の部落史通信】8号(1996年12月)
渡辺俊雄「史料紹介／和泉市議会所蔵関係資料」
尾崎安啓「史料紹介／河内国燈油村関係文書の概観」
——「スポット／「自治体史編纂と部落問題」で意見交換」
渡辺 実「各地区の部落史研究／「浪速地区の歴史」編纂委員会」
里上龍平「図書紹介／大阪の部落史研究と実態調査の先がけ—『大阪市住吉区矢田部落調査報告』」
松原右樹「図書紹介／埋葬地のアンコ・ウグイ竹—『被差別部落の民俗伝承 大阪』」
- 【大阪の部落史通信】9号(1997年3月)
——「貝塚で獣骨のつまった中世土坑、発見—一部落史研究にも重要な示唆」
松井 章・藤本清二郎「コメント」
里上龍平「史料紹介／貝塚市議会所蔵史料からみた貝塚の部落」
小山仁示「書評／『新修 大阪の部落史』下巻」
渡辺俊雄「視点／戦後運動史の構想」
松原右樹「図書紹介／葬式と白のフォークロー—『被差別部落の民俗伝承 大阪』」
——「研究会報告／近世部会、現代部会」
- 〈カ〉
- 【解放研究】10号〈「明日を拓く」16・『東京部落解放研究』99号〉(1996年12月)
石井 進「中世都市鎌倉の構造」
樋口和雄「近世信濃における渡船従事者に対する賤視様相—松代藩「七船渡水主」の身分的位置をめぐって」
岡岡満雄「浅草弾左衛門の系譜」
北爪 壹「弾左衛門家の系図—『下野国藩右衛門文書』所収の新史料による考察」
——「資料／二十世紀初頭東京を中心とする皮革産業の状況—『皮革世界』の記事から(続)」
- 【解放研究しが】第4号
——「特集 共同研究「語りにみる生活文化史」」
——「滋賀における部落史研究」
- 【解放研究しが】第5号
——「特集 差別表現を語る」
——「生活史・誇りのメッセージ」
- 【解放新聞】1767号(1996年5月)
——「リパティおおさか—戦後部落問題の諸相」

- <ヒ>
 『東アジア研究』6号(大阪経済法科大学アジア研究所、1994年5月)
 金光哲「南北朝・室町期における朝鮮観の中心思想—「朝鮮通信使」善隣友好観批判をかねて」
- 『一橋論叢』112-3号(一橋大学一橋学会、1994年9月)
 趙昕「『破戒』の主人公、丑松の人間像の構成」
- <フ>
 『福岡県地域史研究』14号(1996年3月)
 江藤彰彦「名・名子・徒弟—筑前国における村内身分—」
 竹森健二郎「明治初年『下足売弘所』にみる被差別部落の下足業の事情」
- <マ>
 『待兼山論叢』28号<美学編>(大阪大学文学部、1994年12月)
 中川桂「天保改革と大坂の芸能統制—「天保御改正録」所収文書」
- <ミ>
 『御影史学論集』20号(1995年10月)
 [書籍紹介] 部落解放研究所「被差別部落の民俗伝承・大阪—古老からの聞きとり」
- 『水と村の歴史』10号(1995年10月)
 日野勝「講演記録 人の世の熱と光を求めて—長野県水平社運動七十年の歴史」
 斎藤洋一「現代の土木技術者が見た五郎兵衛用水」
 [史料紹介] 大熊哲雄「猿まわし召捕り一件」
 佐藤敬子「桑山村名主市之丞の日記(4)—文化十五年一月～文政一年十二月」
- 『民俗学論叢』10号(相模民俗学会、1995年2月)
 大野一郎「神葬祭研究の課題—死穢観と浄化儀礼」
- <ム>
 『無尽灯』107号(大谷大学同窓会、1997年3月)
 泉恵機「研究ノート」
- <モ>
 『桃山学院大学人間科学』12号<沖浦和光教授退官記念号>(1997年3月)
 寺木伸明「天正十九年高野山領検地帳記載の「かわた」について—紀伊国那賀郡調月村検地帳の分析」
- <ヤ>
 『山口県地方史研究』76号(1996年10月)
 杉山博昭「部落改善事業から社会事業へ—河野諦円と社会事業」
- <レ>
 『歴史学研究』686号(1996年7月)
 上杉聰「書評/今西 —「近代日本の差別と村落」

- 『歴史学研究』688号(1996年9月)
 大杉由香「書評/北原糸子『都市と貧困の社会史』」
- 『歴史学研究』増刊号(1996年10月)
 武廣亮平「日本古代の「夷狄」と「蝦夷」—その儀礼と身分」
- 『歴史学研究』693号(1997年1月)
 榎村寛之「書評/和田 萃『日本古代の儀礼と祭祀・信仰』(上・中・下)」
 海老澤夷「書評/網野善彦・石井 進編『中世の風景を読む』(2・3・7)」
- 『歴史研究』34号(大阪教育大学歴史学会、1997年3月)
 藤原 豊「近世後期の部落寺院について—摂津国川辺郡火打村勝福寺取り扱一件を中心に」
- 『歴史手帖』22-12号(名著出版、1994年12月)
 勝田 至「中世民衆の墓制と死穢」
- 『歴史と神戸』196号(1996年6月)
 塚田 孝「落合重信氏の部落史論に学ぶ」
- 『歴史評論』558号(1996年10月)
 吉田伸之「都市民衆世界と社会的権力」
- 『歴史評論』561号(1997年1月)
 藤本清二郎「近世かわたの村の村方史料について—「預り史料」の文書管理」
- 『歴史評論』563号(1997年3月)
 吉田伸之「都市民衆世界の歴史的位相—江戸・浅草寺地域を例として」
 能川泰治「日露戦時期の都市社会—日比谷焼打事件再考」
- 『歴史民俗学』4号(1996年6月)
 飯尾森之「尾張サンカの研究2」
 磯川全次「喜田貞吉と特殊部落研究号」
 田中紀子「菊池山哉小伝(2)」
- 『歴史民俗学』5号(1996年9月)
 飯尾森之「尾張サンカの研究3」
 田中紀子「菊池山哉小伝(3)」
 田村 勇「弾左衛門支配の伝承をもつゾウリオモチ作り」
- 『歴史民俗学』6号(1997年2月)
 飯尾森之「尾張サンカの研究4」
 田中紀子「菊池山哉小伝(4)」
 松浦国弘「幕末期におけるある被差別部落の生活と風俗」

(3) 部落問題・人権関係逐次刊行物

- <ア>
 『明日を拓く』17・18号<『東京部落解放研究』100・101号>(1997年1月)
 <特集1:『東京部落解放研究』通刊百号を記念して>

- 酒井 一「南王子村の高札場(1)」
 松原右樹「聖神社と舞村のこと」
 田中正人「差別戒名の意味するもの」
 中達孝行「“表”の製造工程」
 浅田禎一「コルクの思い出」
 『郷土のあゆみ』26号(1995年3月)
 松原右樹「聖のカミの原像」
 松本常一「我が郷土南王子村の歩み—私の青春時代」
 坂本隆志「聖神社奉納相撲大会の思い出—聖神社相撲神事の由来」
 松本房司・川植由竹「対談／輝かしい地場産業—玉とつぼりの思い出」
 『郷土のあゆみ』27号(1996年3月)
 酒井 一「南王子村の高札場(2)」
 松原右樹「[癩者]と宿と小栗街道」
 松本常一「紀州の子守り子」
 坂本隆志「思い出」
 『郷土のあゆみ』28号(1997年3月)
 酒井 一「解放令と相撲興行(1)」
 松原右樹「信太の森の王子と鏡池」
 松本常一「亡き親友 西川君に捧げる」
 中田耕二「南王子青年団の事業」
 <ク>
 『くちくまの』107号(1996年11月)
 芝 英一「近世の非人についての試論—田辺領(藩)の場合」
 『くちくまの』108号(1997年3月)
 楠本慎平「役家と柄在家—紀州田辺領の場合」
 <ケ>
 『研究論集』64号(関西外国語大学、1996年8月)
 加藤昌彦「西光万吉と世界連邦運動」
 <コ>
 『国立歴史民俗博物館研究報告』61号(1995年1月)
 共同研究「生命観—とくにヒトと動物との区別認識についての研究」
 塚本 学「基層文化への関心とその共同研究—文字史料をあつかう者の立場から」
 塚本 学「江戸時代における動物の生命と人命」
 原田信男「中世における殺生観の展開」
 松井 章「古代・中世の村落における動物祭祀」
 <シ>
 『泗水』15号(1997年3月)
 和田 勉「茅の輪くぐりとケガレ」

- 『樟陰東女子短期大学研究論集』7号別冊(1996年9月)
 森田康夫「柳田国男における被差別民論の構図」
 『情況』63号(1996年5月)
 藤原良章「穢忌避観念の発達と身分制」
 『史料センター事業ニュース』2号(1996年3月)
 吉田栄治郎「新撰組と被差別部落」
 <ナ>
 『奈良法学会雑誌』9巻3・4号(1997年3月)
 桐村彰郎「インドの政治システムと政党」
 牧 英正「近世被差別身分制度化前の状況について」
 <ニ>
 『日本史研究』406号(1996年6月)
 山田充昭「検非違使成立期前後の京中警備の実態」
 『日本史研究』409号(1996年9月)
 山田邦和「京都の都市空間と墓地」
 高田陽介「戦国期京都に見る葬送墓制の変容」
 勝田 至「[京師五三昧]考」
 『日本史研究』412号(1996年12月)
 玉井哲雄／網 伸也／馬田綾子／百瀬正恒「第5回平安京・京都研究集会 シン
 ポジウム「八条院町とその周辺—中世職人町の景観と構造」」
 『日本史研究』415号(1997年3月)
 高岡裕之「総力戦と都市—厚生運動を中心に」
 『日本民俗学』205号(1996年2月)
 鈴木明子「近世における願人の発生」
 『日本歴史』579号(1996年8月)
 柴崎力栄「書評と紹介／北崎豊二著『近代大阪の社会的研究』」
 『日本歴史』580号(1996年9月)
 山本英二「続・「慶安御触書」成立試論—丸山雍成氏のご批判に寄せて」
 『日本歴史』581号(1996年10月)
 大日方克己「書評と紹介／和田 萃著『日本古代の儀礼と祭祀・信仰』上・中・
 下」
 木村 礎「書評と紹介／北原糸子著『都市と貧困の社会史—江戸から東京へ』」
 『日本歴史』584号(1997年1月)
 脇田 修「部落のお正月」
 <ネ>
 『年報中世史研究』19号(中世史研究会〈名古屋大学文学部内〉、1994年5月)
 和田 実「院政期における天下触穢について」

- 部落解放浅香地区総合計画実行委員会編『生まれた。育った。生きていく—浅香「総計」結成20周年写真集』(1996年10月)
- 部落解放研究所編『日本文化史における被差別民』〈同和問題研修の手引き第1集〉(大阪企業同和問題推進連絡協議会、1995年3月、A5版・67頁)
- 部落解放研究所編『部落史の再発見』(解放出版社、1996年4月)
- <ヘ>
- 舩松歴史資料館『名人阪田三吉特別展—『馬』と『三』の文字から』(1996年10月)
- <マ>
- 松尾剛次『救済の思想—叡尊教団と鎌倉新仏教』(角川書店、1996年5月)
- <ミ>
- 水本正人『宿神思想と被差別部落—被差別民がなぜ祭礼・門付にかかわるのか』(明石書店、1996年9月)
- 峯岸賢太郎『近世被差別民史の研究』(校倉書房、1996年9月)
- <ム>
- 宗像地区部落史発掘調査研究委員会編『せーいっぱい生きてきた—古老からの聞き取り』(1995年7月)
- <ヤ>
- 山内 昶『タブーの謎を解く—食と性の文化学』(ちくま新書、1996年12月)
- <ヨ>
- 義江彰夫『神仏習合』(岩波新書、1996年7月)
- 吉田町部落解放推進協議会編『立ち上がる瞬間—吉田を中心とする部落解放の歴史抄』(1997年3月、A5版・104頁)
- 四日市市編『被差別部落に生きて—四日市市部落史聞き取り調査報告書』(1996年3月)
- 四日市市編『四日市市史 追録』〈部落差別をなくすために—第八巻史料編『近世I』史料解説集〉(1997年3月)
- <ワ>
- 和歌山県同和委員会『復刻版 同和』(1996年7月)
- 脇田 修『部落史に考える』(部落問題研究所、1996年11月)
- 脇田晴子『日本中世の地縁的・職能的共同体と被差別民—集団帰属性と差別』(前川和也編著『ステイタスと職業—社会はどのように編成されていたか』〈ミネルヴァ西洋史ライブラリー20〉ミネルヴァ書房、1997年3月)
- 渡辺俊雄『いま、部落史がおもしろい』(解放出版社、1996年8月)
- 渡辺俊雄編『部落史を考える』第3集〈「瓦版／新刊・旧刊情報」No.30～No.45〉(1996年8月)

(2) 逐次刊行物

<イ>

『池坊短期大学紀要』27号(1997年3月)

秋定嘉和「内務省「芸娼妓酌婦女給の本籍地並稼業地別人員調」(昭和10年2月調)について」

<エ>

『愛媛近代史研究』60号(1995年9月)

三宅清昭／井上啓／葦田弘道／篠崎勝「近代天皇制創始期における愛媛の被差別部落民の動きと差別行政」

<オ>

『大阪電気通信大学研究論集』〈人文・社会科学編〉32号(1997年3月)

小田康徳「史料紹介／愛国社再興大会に関する新出の記事と文書および当該大阪における民権運動関係記事」

『大阪の歴史』48号(1996年11月)

小田康徳「大阪編年史編集だより(1)明治10年代職業貴賤意識に関する二つの史料」
『大谷大学真宗総合研究所研究紀要』14号(1996年)

泉 恵機「高木顕明に関する研究—資料及び略年表について」

『大原社会問題研究所雑誌』458号(1997年1月)

高橋彦博「協調会コーポラティズムの構造」

矢野達雄「戦前期争議調停における協調会の役割」

木下 順「協調会の労務者講習会」

<カ>

『神奈川大学評論』25号(1996年11月)

山本幸司「書評／川元祥一『日本文化の変革』」

『関西大学 法学論集』46巻2号(1996年6月)

吉田徳夫「湯浅地域の寺院史料の考察—被差別部落寺院の起源の史料を中心に—して」

<キ>

『教員養成セミナー』182号〈同和問題を考えるために〉(1996年6月)

渡辺俊雄「同和問題の歴史」

柴谷篤弘「インタビュー／差別する側こそが問題」

藤里 晃「同和教育の実際」

——「同和問題の重要語句／試験で問われる同和問題／同和教育基本方針／同和問題基礎資料」

『教学研究紀要』5号(1997年3月)

左右田昌幸「「穢寺帳」ノート」

『郷土のあゆみ』25号(和泉市立解放総合センター、1994年3月)

- Johnson, Carmen "Wave - rings in the Water : My Years with the Women of the Postwar Japan" CHARLES RIVER PRESS, 1996
- 神野清一『卑賤観の系譜』〈歴史文化ライブラリー 8〉(吉川弘文館、1997年2月)
〈ス〉
- 杉原 薫・玉井金五編『大正・大阪・スラム—もうひとつの日本近代史 増補版』(新評論、1996年9月)
- 住本健次『たのしい同和教育への道—明日の同和教育をつくる』(キリン館、1996年5月)
- 住本健次『講座 部落の歴史』(キリン館、1996年8月)
〈セ〉
- 「戦後の部落解放運動・同和行政30周年」記念事業推進委員会編『私達のねがいを聞いて下さい—戦後和泉の部落解放運動の歩み』(1996年7月)
- 全国部落史研究交流会編『部落史における東西—食肉と皮革』(解放出版社、1996年5月)〈収録論文は、以下の通り〉
- ・大熊哲雄「近世の旦那場をめぐる問題」
 - ・吉田栄治郎「西日本の旦那場—大和を中心に」
 - ・中里亜夫「近代における屠場の変遷」
 - ・のびしょうじ「近代食肉史の構想」
 - ・寺木伸明「近世部落史研究の課題」
 - ・秋定嘉和「近代部落史研究の課題」
- 〈タ〉
- 第六回全国小栗サミット大阪大会実行委員会編『まぼろしのをくり街道』(1996年9月、B5版、89頁)
- 田川水平社70周年記念誌編集委員会編『人権啓発・啓発事業の創造を求めて—田川水平運動70周年記念誌』
- 滝尾英二『「人権からみた日本の社会」と研究者の責任』〈東アジアにおける「人権の歴史」資料シリーズ第1輯〉(人権図書館・広島青丘文庫、1996年8月)
〈チ〉
- 「町史よもやま話」編集委員会編『町史よもやま話』(新宮町、1996年12月)
- 鄭 棟 柱 (チョン・ドンジュ) [根本理恵訳]『神の杖』(解放出版社、1997年2月)
〈テ〉
- 寺木伸明・大阪府同和教育研究協議会編『部落史学習をどうすすめるか—教師のための学習資料』第2版 (1996年11月)
- 寺本知さんを偲ぶ集い実行委員会編『寺本知さんを偲ぶ』(1996年5月)
- 寺本 知『魂の糧—にんげんを求めて』(解放出版社、1997年2月)
- 寺本知を偲ぶ会『しのお草「寺本知は生きている」』(1997年1月)
〈ト〉
- 豊田慶治『証言・京都市の同和行政—雄々しき仲間たち』(部落問題研究所、1996年

12月)

〈ナ〉

- 中尾健次『江戸時代の差別観—近世の差別をどうとらえるか』(三一書房、1997年2月)
- 永瀬康博編『新館竣工記念 神戸市中央卸売市場西部市場30年のあゆみ』(西部市場新館竣工、市場開設・神戸中央畜産荷受株式会社設立30周年記念事業実行委員会、1996年7月)
- 中野輝行『「インド・カースト制度」研究ノート』(1996年10月)
- 永原慶治・中村正則編『歴史家が語る 戦後史と私』(吉川弘文館、1996年5月) [上田正昭「戦中の痛恨から戦後の開眼へ」、田中彰「私のなかの部落解放史」、ひろたまさき「帝国の中にいて」、阿部謹也「学会と日本の「世間」ほか」]
- 生瀬克己編『近世障害者関係史料集成』(明石書店、1996年9月)
- 奈良県同和問題関係史料センター編『奈良県同和問題関係公文集(1)』〈奈良県同和問題関係史料第二集〉(1996年3月)
- 奈良県同和問題関係史料センター編『テーマ展／同和教育創造への軌跡—近代の学校教育と部落問題』(1996年6月)
- 奈良県部落解放研究所編『奈良県部落解放研究所創立25周年記念誌』(1996年6月)
- 「奈良県部落解放史年表」編纂委員会編『奈良県部落解放史年表』(奈良県部落解放研究所、1996年6月)

〈ハ〉

- 河 明 生 (ハ・ミョンセン)『韓日本移民社会経済史—戦前篇』(明石書店、1997年2月)
- 朴 憲 行 (パク・ホンヘン)『在日韓国人—一世—戦後50年の想い』(草風館、1995年8月)
- 畑中敏之『「かわた」と平人—近世身分社会論』(かもがわ出版、1997年2月)
- 服部 敬「地方制度の成立と被差別部落」(花園大学人権教育研究室編『戦争・戦後責任と差別』〈花園大学人権論集3〉法政出版、1996年3月)
- 反差別国際連帯解放研究所しが編『語りのちから』(弘文堂、1995年11月)
- 反差別国際連帯解放研究所しが・滋賀県教育委員会『もうひとつの近江文化』
〈ヒ〉
- 東大谷高等学校同和教育委員会編『改訂 夜明けをめざして』(1996年4月)
〈フ〉
- 府高同研30周年記念誌編集委員会編『広まりと深まりを求めて—府高同研30年の歩みとこれから』〈府高同研30周年記念誌〉(府高同研30周年記念事業実行委員会、1997年1月)
- 藤木久志『雑兵たちの戦場—中世の傭兵と奴隷狩り』(朝日新聞社、1995年11月)
- 藤野 豊編『歴史のなかの「癩」』(ゆみる出版、1996年4月)
- 藤本清二郎『近世賤民制と地域社会』(清文堂、1997年2月)

資料

部落史関係文献目録

(1996年4月～1997年3月)

以下の目録は、本号特集の一環として、概ね1996年4月から1997年3月の間に発表された著作・論文を対象に、(1)単行本・冊子、(2)逐次刊行物、(3)部落問題・人権関係逐次刊行物に分類して掲載した。(1)は編著者の、(2)(3)は雑誌名の50音順に配列した。なお、1988年以降に発表されたものを、若干補った。

(1)単行本・冊子

<ア>

青山忠正『幕末維新 奔流の時代』(文英堂、1996年9月)

秋定嘉和「記録された「被差別」の姿を読む—大阪市社会部調査から」(『大阪市社会部調査報告書別冊 [解説]』<日本近代都市社会調査資料集成3> 近現代資料刊行会、1996年10月)

秋定嘉和・安達五男・井上満郎・川嶋将生・寺木伸明・渡辺俊雄『人権の歴史(改訂版)—同和教育指導の手引』(山川出版社、1997年3月)

網野善彦『日本中世に何が起きたか—都市と宗教と「資本主義」』(日本エディタースクール出版部、1997年1月)

荒木 謙『『破戒』のモデル—大江礒吉の生涯』(解放出版社、1996年12月)

<イ>

井沢元彦『逆説の日本史』4 <中世鳴動編—ケガレ思想と差別の謎> (小学館、1996年6月)

泉佐野市教育委員会編『夜明けをめざして—鶴原東・下瓦屋南の歴史』(1997年3月)

<ウ>

上杉 聡『部落史がかわる』(三一書房、1997年3月)

上野茂編『被差別民の精神世界—部落史観の転換』(明石書店、1996年5月) <収録論文は、以下の通り>

- ・上野 茂「神社祭祀と部落」
- ・辻本正教「粟舎利と蘇民将来の謎—日吉・唐崎のトポスと蛙」
- ・吉田栄治郎「地域社会の中のかわた村—変貌する関係から」
- ・臼井寿光「部落史の枠組みと構想」

植松忠博『土農工商—儒教と官僚支配』(同文館、1997年3月)

<オ>

大分県部落史研究会編『大分県部落解放小史—読む年表と史料』(1996年9月)

大阪市同和教育研究協議会・大阪府同和教育研究協議会編『反差別・人権の視点を教科書に—1997年度用中学校教科書検討資料(社会科)』(1996年6月)

大阪人権博物館編『戦後部落問題の諸相—1945～1965』(1996年5月)

大阪人権博物館編『食肉文化—さばく・あきなう・たべる』(1996年10月)

大阪人権博物館編『食肉の歴史と技術』(1996年10月) <収録論文は、以下の通り>

・八木 正「食肉文化—イデオロギー・差別・生産技術」

・鄭 大 聲「食肉文化と焼肉料理」

・三宅都子「大阪市における食肉市場の変遷」

・のびしょうじ「食肉小売り店舗の成立」

岡本嗣郎『9四歩の謎—孤高の棋士・坂田三吉伝』(集英社、1997年3月)

小郡水平社創立70周年記念事業実行委員会編『小郡水平社70周年記念誌』(1997年1月)

<カ>

「(仮称) 水平社歴史館」建設推進委員会編『図説 水平社運動』(解放出版社、1996年9月)

門真市同和对策室『石はかたる』(B5版・18頁)

<キ>

北崎豊二『近代大阪と部落問題』(解放出版社、1997年4月)

金 静 美(キム・チョンミ)『故郷の世界史—解放のインターナショナリズム』(現代企画社、1996年4月)

京都市人権啓発推進会議編『人権—ゆかりの地をたずねてII』(1996年11月)

京都部落史研究所編『シンポジウム『部落の近世政治起源説』をめぐって—新たな部落史像を求めて』(1996年11月)

<ク>

群馬部落研東毛地区近世史学習会編『下野国半右衛門文書』(1996年4月)

<コ>

五味文彦『殺生と信仰—武士をさぐる』(角川選書、1997年1月)

<ク>

埼玉県立入間向揚高等学校編『差別のない未来こそ私たちの未来—三年間の同和教育・人権教育から <1996年度版>』

埼玉県同和教育歴史教材編集委員会編『埼玉の部落—歴史と生活』(1997年3月)

桜井厚、中川ユリ子、山本哲司『リアンスブックレット 生のかたち—被差別部落の生活史を訪ねて』

<シ>

勅諭賀県同和问题研究所編『近江国蒲生郡中山川田村関連文書—金剛定寺文書・岡本家文書・岡崎家文書・岡崎信家文書』(1997年3月)

勅諭賀県同和问题研究所編『近江国被差別部落関係古文書目録』(1997年3月)

勅諭賀県同和问题研究所編『近江国身分史関係資料目録』(1997年3月)

塩見鮮一郎・小松克己『どう超えるのか? 部落差別—人権と部落観の再発見』<プロブレムQ & A 16> (緑風出版、1996年11月)